



プロセッサによる造材を見学



谷止工の工事箇所を見学



ドローンで林内の状況を確認

大始良中学校職場体験を受け入れ

【大隅森林管理署】

大隅森林管理署では、毎年、大始良中学校3年生の職場体験を受け入れています。

今年度は、5月24日、25日の2日間に男子生徒2名、女子生徒2名の合計4名受け入れました。

体験1日目は、署において

外山三男森林技術指導官より、国有林の概要と大隅森林管理署の業務内容を説明した後、保育間伐（活用型）請負事業箇所へ移動して、実際の現場において、伐採から運材までの作業システムを見学し、スギ丸太がどのように生産されるのかを学習しました。

その後、ドローンを使い間伐実施後の林分状況を上空からの映像で確認しました。

体験2日目は、治山事業の現地において、下池和彦総括治山技術官より、山地災害への備えと国有林における治山事業の概要説明を行った後、

コンクリート谷止

工事を見学し、監督職員の仕事内容を学習して、最後に職員の前で2日間の感想等を一人一人発表してもらい職場体験を終了しました。

今回の職場体験は短期間ではありましたが、生徒達は、チェンソーによる伐倒作業やプロセッサによる造材作業、谷止工構造物を興味深く見入るなど真剣に学ぶ姿勢が見られ、森林・林業への関心を深めていただくことができたと思います。

マラリアとキナノキ 平和学習で出前授業

【西表森林生態系保全センター】
6月9日、竹富町立船浮小
中学校にて（国研）森林研究・
整備機構 森林総合研究所 林
木育種センター西表熱帯林育
種技術園と協同でキナノキ
（注釈・アカネ科キナノキ属）
について出前授業を行いました。

す。当センターからは、沖縄
営林署租納担当区技師、宮崎
製男氏の報告資料「西表島の
規那栽培に就て」を基にスラ
イドを作成し、宮崎製男氏が
約90年前にキナノキを栽培し
た技術や経験もない、さらに
現在のようない情報技術など
ない中で、悪戦苦闘しながら
もキナノキ栽培に挑ん

だことや戦争の恐ろしさを説
明し、西表熱帯林育種技術園
の千吉良園長からは熱帯の植
物ではあるものの八重山地方
でキナノキを育てるのはとて
も難しく、八重山で上手にキ
ナノキを育てるために必要な
ことなどの説明がなされまし
た。
児童らは約2時間の長丁場
の出前授業にもかかわらず、
一言一句を聞き逃さないよう
に、とても真剣に聞き入って
おり、今回の出前授業を受け
た児童・生徒が大人になった
ときに、自分達が生まれ育つ

た西表島で昔こういうことが
あったことを語り継いでほし
いと講師からお願いして出前
授業を終りました。

くまもと林業 大学校で講義

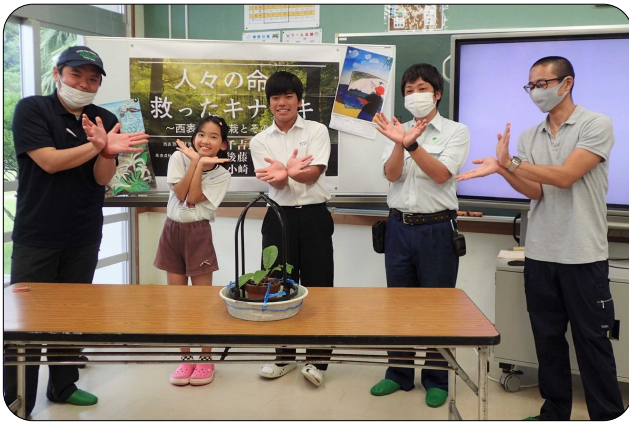
【熊本森林管理署】

熊本県では次世代をリード
する林業担い手の育成と確保
を目的として、平成31年4月
にくまもと林業大学校を開校
しました。が、本年度も（公財）
熊本県林業従事者育成基金か
らの依頼を受けて、井上智晴
署長が林業政策「国有林野の
役割と具体的な取組」と題し
て、6月14日に県北校（熊本
県林業研究・研修センター）
の学生12名に対して講義を行
いました。

策として、国有林
に熱帯の樹木を植
える試みがなされ
ており、その樹種
の一つにキナノキ
がありました。こ
のキナノキの樹皮
からマラリアの特
効薬である「キニー
ネ」が抽出され、
終戦時期にかけて
当時大流行してい
たマラリアから西
表島の一部の住民
の命を救ったとき
の過去がありま



アカキナノキの挿し木苗



講師と児童らで葉っぱの付き方は、
対生ポーズで記念撮影（写真提供：船浮小中学校）

講義では、まず林野庁全体
の組織と業務内容を説明した
後、九州森林管理局のパンフ
レットにて九州局の基本的な
取組事項を説明しました。そ
の後、昨年6月に閣議決定さ
れた森林・林業基本計画のボ



講義する井上署長

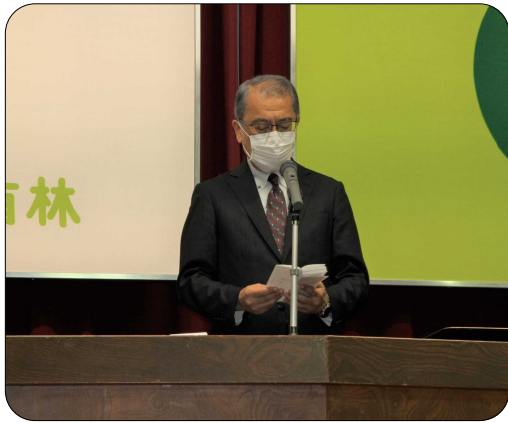


令和4年度 林野庁職員 定期表彰式 を開催

イントを説明し、その計画を反映した令和4年度の重点取組事項等により国有林の具体的な取組について説明し、学生たちは熱心に受講しました。

最後の質疑応答では、管理されていない森林の今後の管理方法、複層林施業の具体的な施業内容、特定母樹の選抜方法、航空実播工の施工方法等について質問が出され、学生たちの真面目で前向きな勉強態度とこれからの熊本県の林業を自分たちが担っていくんだとの意気込みを強く感じられ、大変頼もしい限りでした。

当署としては、引き続きくまもと林業大学校をはじめその他の国有林関係機関からの要請等に対して、積極的に対応していく考えです。



祝辞を述べられる矢野局長



代表の平野さんから矢野局長へ謝辞

6月21日、九州森林管理局大会議室にて、「令和4年度林野庁職員定期表彰式」を新型コロナウイルス感染症の防止対策を行い開催しました。

この定期表彰は、林野庁に入庁され、30年並びに20年に渡り国有林野事業に勤続された職員に対して、農林水産大臣から表彰されるものです。

今回の表彰式は、30年勤続された職員を対象に開催され、当日は受賞者11名と矢野彰宏局長、川戸英騎次長、

3部長並びに各課の課長14名の合計25名が出席されました。式では始めに、矢野彰宏局長から受賞者へお祝いと永年の努力と労苦に対する感謝が込められた祝辞があり、受賞者1人1人に表彰状を授与されました。

受賞者からは、熊本南部森林管理局の平野耕一さんが代

表して、式のお礼や今後も更なる職務に精励して行くことを誓った謝辞を述べて閉式となりました。

そして最後に、出席者全員で記念撮影を撮り全ての行事が終了しました。

今回表彰された、勤続30年の表彰者13名と勤続20年の表彰者2名の皆さんにおかれては、今後も健康に留意され国有林野事業でご活躍されますことを祈念致します。



表彰式に出席された皆さんで記念撮影

- ★勤続30年表彰者★
 - 山根 則彦(計画保全課)
 - 内海 康雄(経理課)
 - 中川 秀樹(保全課)
 - 前川 康弘(保全課)
 - 平野 耕一(熊本南部署)
 - 松永 恭一(熊本南部署)
 - 江口 保広(西都児湯署)
 - 谷山亜紀子(西都児湯署)
 - 河本 正人(都城支署)
 - 水本 博充(都城支署)
 - 坂元 健次(都城支署)
 - 田中 善成(宮崎南部署)
 - 猪島 憲治(北薩署)
 - ★勤続20年表彰者★
 - 松本 知子(保全課)
 - 藤井 武史(屋久島署)
- (担当：総務課)

国有林防災ボランティア活動打ち合わせ

【佐賀森林管理署】

6月14日、佐賀森林管理署会議室において、国有林防災ボランティア協定者の（二社）

九州林業土木協会の牟田建設（株）、（株）中野建設、山口建設（株）、野田建設（株）の4社に出席いただき、佐賀森林管理署からは、白石健二署長をはじめ治山・林道

事業の担当者等8名が出席し、自然災害に備えた国有林防災ボランティア活動の打ち合わせを行いました。

はじめに白石健二署長から「昨年8月の豪雨により多くの災害が発生しボランティア活動により早期に災害状況が把握できたことへの感謝の言葉と、既にも梅雨に入り



打ち合わせの様子

「唐浜海岸の松林を守る」

集中豪雨や台風シーズン前に被害発生が危惧されておりボランティア派遣を要請した場合には、まずは身の安全を確保し周囲の状況を十分注意して活動していただくようお願いいたします」と挨拶を述べました。

つづいて、後藤毅総括森林整備官から、打ち合わせの趣旨と自然災害が発生した場合の国有林の位置情報や人家等への被害の有無、応急対策、活動エリアなど現地調査を行う際の留意事項について説明しました。

本日の活動内容の打ち合わせが、非常時に迅速かつ機動的な活動につながることも、当署においても管内の巡視を継続し、地域住民の安全確保に取り組みこととしています。

【北薩森林管理署】

当署管内に所在する薩摩川内市唐浜海岸一帯の松林は、唐山国有林として潮害防備保安林に指定されており、隣接する地域住民の安全・安心な暮らしを守る役割や、地域の特産品である「唐浜らつきょう」などの農作物を潮害等の被害から守るために地域にとつてなくてはならない重要な松林となっております。

近年、その松林がマツノザイセンチュウによる松くい虫被害により松が減少する被害が拡大していることから、薩摩川内市や地元住民からの要望を受け、マツノザイセンチュウを媒体とするマツノマダラカミキリを駆除するために薬剤散布を行うため、松くい虫防除事業や被害木を早期に駆除するための伐倒駆除及びびくん蒸処理を適期に実施しているところです。

今年度においても、特産の「唐浜らつきょう」への薬剤散布による被害を発生させない



無人航空機による散布状況



使用した無人航空機

ために、低空飛行により薬剤の拡散が起らないことや薬剤散布の効果がしつかりと得られることを目的として、無人航空機（ラジコンヘリ）による薬剤散布事業を5月と6月の2回実施しました。

今後においても、地域住民の安全・安心な暮らしや「唐浜らつきょう」などの農作物を守るため、地域住民の理解を得ながら森林を守る対策に取り組んでまいります。

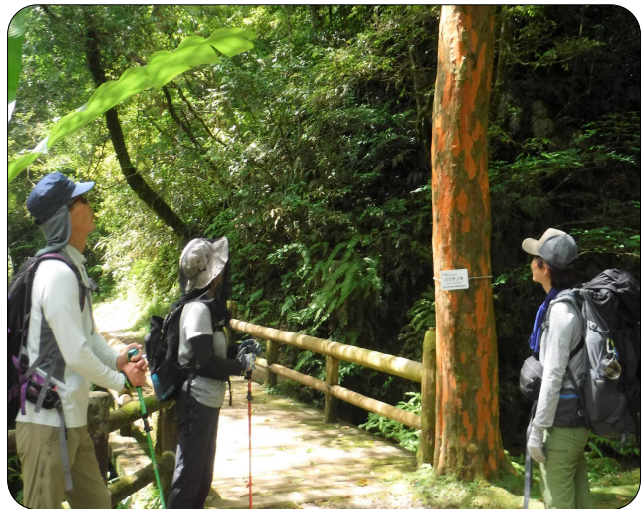
宮崎自然休養林 利用者のニーズに 応え遊歩道に樹名 板を取り付け

【宮崎森林管理署】

宮崎自然休養林は、宮崎市の南部に位置し、シイ・カシ類等の暖帯性天然広葉樹を主体とする照葉樹林と、「天狗岩」や「象の墓場」などの奇岩・巨岩、そして加江田溪谷の清流等で構成される森林エリアとなっています。



自然休養林内の様子



取り付けた樹名板に足を止める散策者

また、市街地から40分と比較的交通アクセスもよく、雄大な多様な自然と癒やしを求めて、宮崎市民をはじめ県内外から多くの方々が登山や森林浴のために訪れる宮崎市屈指の人気スポットです。

本自然休養林内には、山岳地帯を縦横に走る登山道と加江田溪谷沿いの森林軌道敷跡を利用した全長約10kmの遊歩道があります。この遊歩道はフラットで歩きやすいため休養林一番人気の自然散策路として老若男女を問わず多くの方々に利用されていますが、遊歩道沿いに見かける樹木の

名前が気になる、知りたいたいの多くの声が寄せられています。

そこでこの度、遊歩道入口である丸野駐車場側から多目的広場のある約3kmの区間に、タブノキ、コジイ、スダジイ等のメジャーなものからカンザブロウノキ、トキワガキ、バクチノキ等のレアなものまで約70種約250枚の樹名板を取り付けました。

これからも、遊歩道を散策される利用者の方々に、「この木、何の木、気になる木」と宮崎自然休養林内の木々が身近な存在に感じていただ

るよう、残りの約7km区間についても今後2、3年をかけて、樹名板を取り付ける計画をしています。

「緑の資金」に協力いただき、ありがとうございます。

- 一般社団法人 九州林業土木協会 様
- 一般社団法人 九州林業士会九州支所 様
- 一般財団法人 日本森林林



- 業振興会九州支部 様
- 一般財団法人 森林・林業調査研究所九州支部 様
- 九州国有林採石協会 様
- 九州国有林林業生産協会 様
- 株式会社 森和 様

☆6月30日付退職
米田 雅人【宮崎署長】

☆6月30日付異動（退職）
国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所企画部研究管理科長
津脇 晋嗣【大分西部署長】

☆7月1日付異動
大分西部森林管理署長
平井 郁明【国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所林木育種センター九州育種場長】
宮崎森林管理署長
山口 輝文【関東森林管理局森林整備部長】

監物台樹木園の 多様な植物



176 コウヤマキ (コウヤマキ科)

私は尾鈴山系のコウヤマキを観察したことがあります。庭木しか見たことなかった私はその大きさに驚愕したことを覚えています。尾鈴岳頂上から西への縦走路を歩き、林道近くになった傾斜地に、根元付近は藪状になっており、そこから抜き出るようにして直



径1mを超える(定かでない)コウヤマキが斜めに立っていたと思う。九州では宮崎県だけにあります。

令和元年に高野山へ行き、直立した胸高直径1mを超える立派なコウヤマキを観察した。

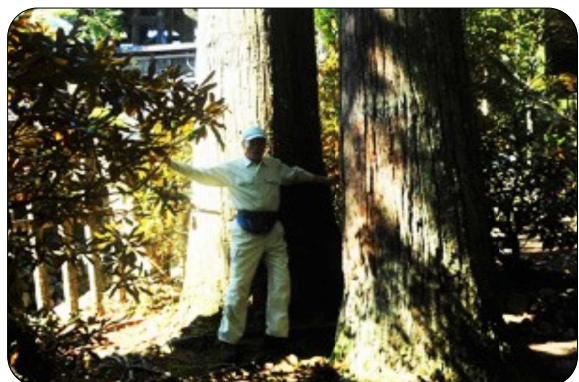
コウヤマキは紀州高野山を中心に伝



に供える花の代用として用いられており、名前もこれに由来するとされています。高野山東端の一の橋から奥の院へ歩くと諸大名の墓地があり、花筒にコウヤマキの葉が飾ってあった。また墓地内のあちこちに胸高直径10cm前後、高さ10m足らずの生立木も観察された。葉は2葉が融合し細長い線形で、しなやかであり先が凹む。上面は濃緑色、上下面の中央に浅い溝がある。雌雄同種。3月に開花し雄花は頭状で、枝の端に群生し、黄褐色、雌花は楕円体で枝の端に単生します。

森林インストラクター

安楽行雄



毎日通勤をしていると、道路沿いの街路樹に目が行く。何のために植えられているのかと調べてみると、景観向上、車の排ガス、騒音等の緩和、歩道と車道の遮断等役割はさまざまです。では、どのような樹種の木が多く植えられているのかというと、3位ケヤキ、2位サクラ、1位イチヨウという結果。なるほどイチヨウ並木というぐらいだから驚きはない。しかし最初に街路樹として植えられた目的は、「人の行き来する往來に樹木があれば木陰で休むこともでき、飢える人はその実を食べられる。」というのが目的であるとは初めて知った。

最近、通勤途中で街路樹が倒れ、車が被害にあったというニュースがあり、市が街路樹の調査をした結果、倒木の恐れがある木が126本見つかったという。都市部においては、道路に街路樹は必要あるのか？標識や信号が見えにくい、伐採のための無駄な費用等さまざまな意見があると思うが、今一度本来の目的を考え、あまり歩くことはないが車の運転をしながら街路樹の恩恵にあずかりたい。

【さ】